

もが遊んでいるのが見えていたと思います。戦闘機がいなくなつてから、顔を上げると、部屋の畳の上に機関銃の弾が転がっていました。弾は本堂の梁に命中しており、梁は折れてしまいました。戦闘機に狙われたのは1度だけでしたが、とても怖かったです。

小学校の再開

天皇陛下から大事なお話があるということで、ラジオを前に置いてみんなで聞きました。当時のラジオは性能も悪くピーピーと音が鳴っていたため、何をお話されているのかわかりませんでした。小学校3年生のため、内容もわからなかったと思います。後から先生に「戦争に負けた。」ということ聞きました。

8月15日に終戦を迎えたからといって、すぐに大阪へ帰れるわけではありませんでした。それから1ヶ月程は疎開先で過ごし、10月初旬ごろにやっと大阪へ帰ることができました。

深江小学校の本校は焼けていませんでしたが、分校

が丸焼けになっていました。分校は1・2年生が使用していたため、本校へ移ることになりました。しかし、本校だけでは児童の数が多すぎていっぱいになり、学校に入りきれなくなりました。そのため、「朝行き」と「昼行き」と言って、授業を午前と午後に分けて行いました。「朝行き」は何年生、「昼行き」は何年生というように分かれて教室を使用しなければいけませんでした。そのうちに、運動場に仮設校舎を建設し、なんとかしのいでいました。

わたしたちが疎開へ行っている間に、教室の天井が全て外されていたため、屋根そのものが見えている状態でした。学校に焼夷弾が落ちた場合に、屋根裏で止まれば燃えてしまうという危険があったからです。そのため天井を全て外していました。わたしたちが帰ってきてからも、天井はそのような状態でした。給食も、すぐくまずい脱脂粉乳をお湯で溶いたものしか出ませんでした。相変わらず食べるものはありませんでしたが、家族と共に暮らし、学校に通えるのはうれしかったです。

戦争を知らない世代へのメッセージ



みなさんに知っていただきたいことは、日本は終戦から70年戦争していないということです。そのことをこれからも守り続けてほしいですね。戦争の体験をされた方は、100人いれば100通りのご意見があり、生徒のみなさんにお伝えしたいことがたくさんあると思います。みなさんは戦後生まれで戦争のことをあまりご存知ないと思いますので、歴史についてさらにくわしく調べていただき、自分自身の考えを持つようにしてほしいですね。今回のお話ではみなさん真面目に聞いてくださったので、本当に良かったと思いました。

親が疎開先へ面会に来ることが
唯一の楽しみでした。

小学校3年生の秋、
大成小学校から奈良県へ疎開した坂上さん。
両親とはなれて心細くつらい思いをしました。

さがみ ただし
坂上 忠さん (当時 9 才)



食べるものがなかった疎開先

小学校3年生の秋に集団疎開で大成小学校(当時は大成国民学校)から奈良県に行きました。その時のことが一番印象に残っています。

当時、疎開する学年としては3年生が一番低学年で、全く知らないお寺や神社に放り込まれました。遠足や臨海学習のようなものではありません。着物などを先に送り、家族とはなれてそこで生活をすることでした。



「当時の食べものの例(サンプル)」 提供: ピースおおさか

朝食の主流は「おかゆ」で、奈良県に疎開した人はみなさん食べられていると思います。お米のある時はごはんが食べられましたが、肉は当時ほとんどありませんでした。イモ・根菜類などを食べて過ごしていました。

しかしそれらも次第に不足し、食べるものの量は減る一方でした。ある時は「するめ」をさいたものが3本おかずとして出てきました。「えっ、これがおかず?」とびっくりしたのを覚えています。今であれば「するめ」をおかずにしてごはんは食べないと思います。当時は食べるものが本当にありませんでした。常にお腹が減っていたので、驚きはしましたが、おいしかったです。

疎開先での生活

疎開先には50人ほどの児童がいました。わたしたちは神社・お寺に疎開しました。広い本堂に全員で寝泊まりをします。朝には起床係として、先生が号令をかけます。